

『風は南から』

令和5年度 校長室便り
(10月13日)(第14号)



「たらいの水理論」とは？

お風呂につかっていて、おもちゃが浮かんでいる様子を想像してください。おもちゃを引き寄せようとする、おもちゃはいったんはこちらに向かってきますが、最終的にはお風呂の縁に当たってむしろ遠ざかってしまいます。しかし反対に、水に向こうに押しやってみると、今度はお風呂の奥の縁に当たって、押し出した水とおもちゃは自分に近づいてきます。この動きを利用した考え方を「たらいの水理論」と言います。

松下幸之助さんが、二宮尊徳の報徳思想を説明する時によく使っていた喩だそうです。「報徳思想」とは、自分のためではなく、社会のために良いことをすれば、いずれ自分に還ってくるという考え方で、その流れを「たらいの水」に喩えているわけです。

自分のもとに引き寄せようとする行為は、私利私欲によるものであり、自分から遠ざけるように押し出すのは社会のため、という考え方になります。

よくGive and Take と言いますが、Takeのことを期待してGiveをしている、なかなか自分の利益になることはありません。Give and Give の考え方で行動していた方が、結果的には自分に得られるものが多い気がします。心に留めておいてください。

「やるべき時に懸命に努力すれば、必ず良い結果が得られるだろう。才能や能力に恵まれながら努力をしない者よりは、こつこつと努力する者こそが長い人生において勝利者となる。人生はまさにマラソンのようなものである。・・・沖高の後輩たちよ、大志を抱け。そのためには高校時代にしっかりとした基礎を築いて、大学や社会に出てから飛躍のための努力をしてほしいと思う。」 創立50周年記念誌より
皆村 武一氏(昭38.3卒、鹿児島大学名誉教授)

「父とのキャッチボール」

末山 那唯希(2年3組)

夏休みの最後の日の夕方、父と二人で中学校のグラウンドにキャッチボールをしに行きました。父は仕事で島を留守にすることが多く、その時も久しぶりに仕事から帰って来て、突然「キャッチボールするか」と言われました。

父はボールを投げると肩が痛いようで、投げたボールがほとんどワンバウンドしていました。時々変化球も投げて、でもちゃんと変化していてすごいなと思いました。

私が小・中学校の頃は、仕事の待機中に港でキャッチボールをよくやっていました。でも高校に入り、土日でも部活動をするようになり父と時間も合わず、キャッチボールできていなかったのが嬉しかったです。

そして今まで力強く感じていた父の投げるボールが、今ではたやすくキャッチできるようになり、自分の成長を感じるのと同時に、父に対する感謝の気持ちをなぜかその時強く感じました。

高校では野球部でチームメイトと練習に励んでいます。試合で活躍する姿を父に見せたいです。そのために一日一日を大切に、練習に励みたいと思います。
(10月2日付 南海日日新聞より)

10月6日 交通安全教室

中間考査が終了した10月6日(金)4限目に、講師に沖永良部警察署交通課長の尾脇真一様と沖永良部交通安全協会から大屋朗仁様をお招きして、令和5年度交通安全教室を実施しました。



今回は、自転車と単車の事故が発生した事例に特化して、D VD視聴と講話をお願いしました。

単車の事故の14%が死亡事故につながるそう、車の死角に入らない、カーブでスピードを落とす、一時停止では足をつく、ヘルメットを着用するなど、当たり前のことですが、交通ルールをしっかり守ることが事故を防ぐことになると強調

されていました。同じく、自転車事故の約8割が交通ルール違反によって生じるようです。自転車も車両になることから、加害者になることも自覚しておかなければなりません。損害賠償が6,700万円という事例もありました。

管内でも朝と夕方の人が多く移動する時間帯に事故が発生しており、原因は安全不確認や前方不注意が多いようです。「かもしれない」運転を心がけて、時間に余裕を持って運転しましょう。「危険な乗り物になるか、自分のパートナーになるかは、自分の心がけ次第」ということでした。

10月10日 男女共同参画セミナー



10月10日(火)学校への男女共同参画お届けセミナーの一環として「自分らしい生き方・働き方」という演題で、松崎陽子様にご講演をいただきました。自分らしく生き、働くために、「ジェンダーについて考える(気づく、行動する)」「自己理解を深める(自分の軸を作る)」ことの大切さを学びました。

「仕事への責任 バイトで学んだ」

市来 仁美(2年3組)

私はこの夏、ドラッグストアで約1か月間アルバイトをしました。去年はスーパーで、レジのバイトでしたが、今回は品物を並べたりレジに入ったり、いろいろとすることが多く、お金を稼ぐ大変さを痛感しました。

バイトの理由は、高校生になり勉強する中で、商業のことをもっと学びたかったからです。また、離島なので部活動の遠征などにお金がかかりました。少しでも足しになればと思いました。

お金を大事に扱うことや、信頼関係を良好に保つためのあいさつ、仕事に対する責任などを学びました。少し成長した気がします。

そして、働いて私たちを養ってくれている親に対して、改めて感謝の気持ちを抱きました。バイトを通して、少しでも社会と関わることができました。商業科で勉強を頑張っ、社会に貢献できる人になりたいです。

(10月2日付 南日本新聞より)